

大学間連携共同教育推進事業

〈考え、表現し、発信する力〉を培う  
ライティング／キャリア支援

## 取組の紹介

取組責任者 中澤 務(関西大学文学部)

取組責任者 高橋裕子(津田塾大学学芸学部)

# 「大学間連携共同教育推進事業」とは

## □ 背景

- 社会の急激な変化を乗り越え、持続的な成長を発展を築くために、主体的に考える力を持ち、社会の様々な課題を解決に導く多様な人材の養成が必要。

## □ 目的

- 国公立の設置形態を超え、地域や分野に応じて大学間が相互に連携。社会の要請に応える共同の教育・質保証システムの構築を支援。教育の質の保証と向上、強みを生かした機能別分化を推進する。
- 平成24年度、153件の申請から、49件が選定。

# 日本社会の課題

- 日本における構造変化とグローバル化
- 持続的で活力ある社会
  - 自律した個の確立
  - 男女共同参画社会の推進
  - 生涯学習の拡大
- これからの日本に必要な人材
  - 世代・立場・性差を超えたコミュニケーションを基盤に、主体的に考え行動し、生涯学び続けていくことのできる人間

# 〈考え、表現し、発信する力〉

- ライティングにおける多様な力の統合
  - 資料を検索し読解する力
  - データを分析・総合する力
  - 論理的に考える力
  - 表現する力
  - コミュニケーション力(相互理解の形成)



# ライティング／キャリア支援

- 〈考え、表現し、発信する力〉の重要性
  - 学士課程教育の質保証に不可欠
  - 社会でコミュニケーションを形成し、主体的に考え生きていくために不可欠
- ライティング／キャリア支援

# ライティングセンター

- なぜ、ライティングセンターか？
- 米国でのライティングセンター
  - ▣ 大学の大量化への対処
  - ▣ 学部教育の全段階において、個々の学生のニーズに対応した支援を展開
  - ▣ 単なる文章指導を超えた、多様な支援
- 日本では支援体制が未整備

# 取組の目的・達成目標

## □ 取組の目的

- ①「主体的学び」の確立による大学教育の質的転換
- ②主体的に考えると同時にコミュニケーションを形成・深化しうる人材の育成

## □ 達成目標

- ①ライティングセンターの利用学生の増加
- ②評価指標にもとづく客観的評価値の上昇
- ③シンポジウム参加大学数の増加
- ④eポートフォリオ利用大学の増加

# ステークホルダー

- **ステークホルダーの役割**
  - **社会の要請を代弁**
    - 〈考え、表現し、発信する力〉を備えた人材の育成
  - **課題共有と協働**
- **社会の声を代弁する多様なステークホルダー**
  - The Writing Centers Association of Japan
  - 伊丹市教育委員会
  - 国立女性教育会館
  - 企業
    - 朝日新聞社、JTB西日本、ダイキン工業、パソナグループ



# 取組の全体像

## □ 取組の五つの柱

- ① ライティングセンターの充実
- ② eポートフォリオの開発
- ③ 評価指標の確立
- ④ カリキュラムとの連動
- ⑤ 社会との連携

## □ 有機的につながる五つの柱

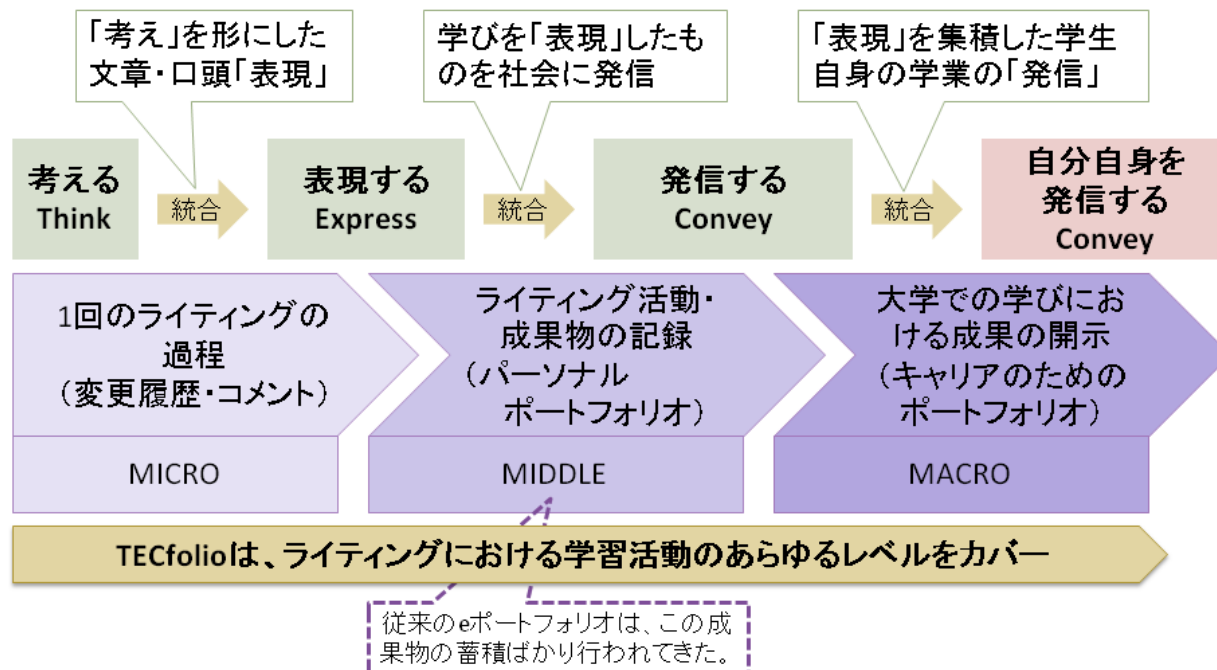


# 取組① ライティングセンターの充実

- ライティング／キャリア支援に最適の支援体制整備
  - 支援内容の拡充
    - あらゆる文章作成への対応
    - キャリア支援を視野に
  - 啓発行事
    - 「書くということと私」
    - 「女性のリーダーシップから学ぶ」
    - 「文章力をみがく講演会」
- 両大学センターの有機的連携
  - 遠隔講義システムの活用

## 取組② eポートフォリオシステムの開発

- TECfolio(仮): Think, Express, Convey
- 三段階でライティングの成果を保存
- キャリアのためのポートフォリオ



## 取組③ 評価指標の確立

- **ライティング支援に評価指標(ルーブリック)を作成し活用**
  - **ライティング指導**
  - **授業での評価基準**
  - **学生の自己評価**
- **ライティング評価指標**
- **〈考え、表現し、発信する力〉評価指標**
- **「客観的評価指標」と「自己評価指標」**

## 取組④ カリキュラムとの連動

- 授業連携の重要性
- ライティングの授業
  - ▣ 「文章力をみがく」(関西大学)
  - ▣ 「日本語ライティング」(津田塾大学)
- 初年次教育との連携
- アクティブ・ラーニングによる学生参加型授業
  - ▣ 「スタディスキルゼミ」(関西大学)

## 取組⑤ 社会との連携

- 高大連携プログラムによるセミナー・講演会
- エッセイ・コンテスト
- ステークホルダーとの連携
  - The Writing Centers Association of Japan
  - 国立女性教育会館
  - 伊丹市教育委員会
  - 朝日新聞社など

# 実施体制と計画

- プロジェクト運営委員会
  - ライティングセンター企画運営部会
  - eポートフォリオシステム開発部会
  - 評価指標開発部会、社会連携推進部会
- 5年間でライティング／キャリア支援体制を確立
  - 平成24年度：準備期間
  - 平成25・26年度：環境整備と実践
  - 平成27年度：成果の検証
  - 平成28年度：改善と完成
- 支援の継続と普及のための連合組織を共同設立